

ない、教育の効率化と学生の満足度向上を目指してきた。そこで今回、学生のデジタルコンテンツ活用状況について調査し、今後の課題について検討した。対象は歯科衛生士学科2年生37人とし平成28年6月22日にアンケート実施した。なお、対象者には、同年4月よりiPadを一人1台貸与している。

講義におけるデジタルコンテンツの活用で「十分に立った」・「少しは役に立った」と答えた者が合わせて84%、「どちらとも言えない」が13%、「役に立たない」が3%であった。また、基礎実習では、「十分に立った」・「少しは役に立った」と答えた者が合わせて95%、「どちらとも言えない」が5%で「役に立たない」と答えたものはいなかった。デジタルコンテンツをiPad本体に保存することで繰り返し見ることができるため、「役に立っている」と回答した学生が多かったと思われる。

今後は、学生が希望するデジタルコンテンツを作成し、アクティブ・ラーニングにつなげていきたい。

歯科技工士学科におけるICT教材の活用について

木下美香（歯科技工士学科）

平成27年度活性化補助金により、歯科技工士学科では、歯科技工実習室に65インチデモ映像掲示モニター、書画カメラ等の技工デモ環境を整備し、また、ウェアラブルカメラや4Kビデオカメラを導入、ICT学習コンテンツの充実化を進めている。

歯科技工実習において、従来の指導方法ではリアルタイムのデモンストレーションを1回見ても理解できない学生が目立ち、教員は個別指導を繰り返し行うなど、効率の悪さと進捗度や理解度の学生間の差が問題となっている。そこで、予習や復習として繰り返し閲覧できるICT環境を提供し、自己学習によって理解度の向上を図り、全体のレベルアップにつなげることを目標とした。

今回、顎口腔機能学実習において作成したICT教材の試験的利用を行い、歯科技工士学科の学生へ実施したアンケート結果から、具体的な課題を明らかにし、歯科技工士学科におけるICT教材の今後の展望について検討を行い報告した。

第83回（通算第166回）：2016年10月27日（木）

（座長：本間和代）

20年間における歯科技工士学科への入学状況について

相馬泰栄（歯科技工士学科）

本学も今年度で20年目を迎えましたが、開学当初に比べ入学生が減少している。その為、今後の入学者確保に役立てたいとの思いから、これまでに本学科に入学した984名の入学状況を開学からの10年間とその後の10年間で比較、検討した。開学からの10年間の入学者は594名、その後の10年間では390名（34.3%）に減少していた。入学者の男女比では男子が54%、女子が46%で変化は見られなかった。入試形態別入学者数を比較してみると全ての入試形態において減少が見られた。特に一般入試入学者は82.6%と大幅に減少した反面、AO入学者が増加したことから高校生は比較的安易なAO入試を希望する傾向が見られた。また、入学者を県内と県外で比較してみると県内入学者が464名から330名（29%）に減少したのに対し、県外入学者は130名から60名（53.8%）に減少していた。県内では様々な広報活動を行って来たが、県内からの入学者は増加しなかった。その為、開学当初からの10年間で入学者が多く歯科技工士養成所の無い群馬県、山形県、長野県及び近県の福島県、富山県での『きめ細やかな』広報活動を今後も実施し、本調査の検証が必要であるとの結論に至った。

明倫短期大学学会第15回記念学術大会の企画説明

植木一範（明倫短期大学学会常任理事会委員長）

第84回（通算第167回）：2017年1月26日（木）

（座長：江川広子）

健康寿命を志向する歯科医療とは。 ～介護予防としての口腔ケア、 口腔機能回復とメンテナンス～

河野正司（明倫短期大学学長・明倫短期大学学会会長）